

聞いてみると、「いつもの年なら上川まで舟で帰れたのですが、去年は御組頭様のご通行が遅れたため、上川へ帰るのを引き留められ、このようなことになってしまったのです」ということです。このような話を聞くと実に「民を使うに時を以てす（*孔子の言葉 国民を公役などで使う際には、適切な時節にすることという意味）」という教えは、なるほど、こういうことか、気を付けなければならぬ、とつぶやきながら歩きました。

この辺り一帯は平野で、西北に雨竜の山々が連なり、気候も暖かいのか雪解けも早いようです。東北東へ2キロほど進むと、小川のサルトコイ、そこから4キロほどで小川のメム、そこからさらに600メートルほどで小川のニウシベツを過ぎて1キロほどの石狩川の川岸で呼ぶと、女性数人が氷の間を小舟に棹をさして近づいて来ました。その舟に乗り、川の中ほどまで進み、そこからは川に浮かんだ氷の上を歩いて、向こう岸へと渡りました。

ここはイチチャンといって、人家が4軒ありました。そのうちの1軒に23〜24歳の女性がいました

が、戸籍簿への記載が漏れたままになっていました。夫はおらず、年老いた母の介抱をしており、浜へは一度も行ったことがないといいます。この話を聞いた同行者の飯田豊之助氏は「なんとという親孝行の娘だ」と大層感動し、「ここに同行している上川のアイヌのサケコヤンケはまだ独身だから、この娘さんをお嫁さんにするにしたらどうか。石狩に帰ったら、私がうまく取り計らってあげよう。また、アイヌの風習で初めて男性と会う時に身に着ける衣装があるが、その服をこしらえる木綿の布を私が贈りましょう」と、親身に話され、この娘の常日頃の行いなどを色々と記録していたようです。



深川橋から見た石狩川

この地点の石狩川は大きく曲がり、美しいアーチを描いている。